

公共職業訓練における

中途退校に関する研究

序 文

本論文は訓大調査研究部戸田勝也研究員の研究報告である。内容は公共訓練校、特に総高訓の中退現象を主として心理学的方法による訓練生理解の角度から検討したものである。本研究により、公共訓練校における中退現象の実態が明らかになり、これに対処する考え方の重要な礎石が築かれたように思う。

今日、全国平均16%に達する公共訓練校の中退は「工業高等学校と比較して、定時制はもとより、全日制と較べても決して大きなものではない」かもしれない。しかし、この現象の中には、いささか大袈裟に言えば吾国職業教育の病理があらわれている。この報告はそれを衝いている。したがって、単なる中退防止の処方箋として読まれてはなるまいと思う。著者が云うように、「職業訓練における中退の真の原因は、訓練生自身では表現できない職業訓練の体質の中にある」がゆえに「中退を減少させることは現行職業訓練体制の改善策を問うに等しい」のである。そして本報の圧巻である中退訓練生のフォローアップはそれに対する回答を暗示しているように思う。

しかしながら、本報は中退の処方箋としても有効な多くの情報をも示している。例えば、知能検査と職業興味検査を組み合わせ、あるPatternの中退の生じる危険性を訓練初期にかなり正確に予測する方式の発見などは興味深い。

更に、“中退現象は本来没価値的なものである”、“もしいつでも入れる訓練体制ができていれば今ほど中退を問題にしなくてもいいであろう”という著者のコメントは注目に値する。中退にみられる職業訓練の病理を癒す鍵はこのような考え方の具現化にあるように思う。本報が職業訓練関係者の判断の基礎として活用されるとともに、心理学関係者各位の正当な評価が得られることを祈りたい。

昭和50年5月

調査研究部長 宗 像 元 介

< 研究担当者 >

戸 田 勝 也

(職業訓練大学校調査研究部研究員)

島 崎 三 郎

(千葉総合高等職業訓練校技術課)

< 最終討論者 >

竹 内 健 二 (千葉総合高等職業訓練校 塗 装 科)

佐久間 裕 泰 (千葉総合高等職業訓練校 電 気 科)

高 中 克 明 (千葉総合高等職業訓練校 機 械 科)

浅 井 清 美 (千葉総合高等職業訓練校 ブロック建築科)

月 田 義 照 (千葉総合高等職業訓練校 技 術 課)

発 行 昭和50年3月31日

発 行 者 職 業 訓 練 大 学 校

調査研究部長 宗 像 元 介

職 業 訓 練 大 学 校

神奈川県相模原市相原1960

TEL (0427) 61-2111